

おおほり わた

1. 小堀の渡し (取手市)

そのむかし、利根川の小堀は船着場として賑わいをみせていました。現在でも取手緑地運動公園と川向こうの取手市小堀地区の間を1回100円で利用でき、ウォーキング・サイクリングや釣り人たちの大切な移動手段として活躍しています。1日7便(9:00~16:00)運航しています。



とねがわ こうえん

2. 利根川ゆうゆう公園 (我孫子市)

面積が約81.3haあり、公園内には、3つの異なったビオトープで構成されている自然観察ゾーン、野球場とサッカー場のあるスポーツゾーン、デイキャンプ広場・オフロード自転車コース・水上ステージなどがあるファミリーレクリエーションゾーン、ヨシ原や河畔林など河川数特有の自然を保全する自然緑地ゾーンの4つのゾーンがあり、利根川の自然にふれあいながら1日楽しめる、ファミリーにもおすすめのスポットです。



あかまつそうたんきゅうきょ

3. 赤松宗旦旧居 (利根町)

布川の医師赤松宗旦は医業のかたわら文献の収集や現地調査などを行い「利根川図志」を編纂しました。この中では、利根川流域の寺社、旧跡、風物などをくわしく紹介しており、生涯を利根川研究にかけた偉人として知られています。



ほうしゅいんかんのんどう

4. 宝珠院観音堂

<国指定重要文化財(建造物)> (印西市)

室町時代後期に建立された国指定重要文化財の宝珠院観音堂は、茅ぶき寄棟造りの簡素な外観とは対照的に、内部は



極彩色に装飾されており、別名「光堂」ともいわれています。写真は、印西八景のひとつ「光堂の雪景」です。

けんりついでんぼまこうえん もろとじょうあと

5. 県立印旛沼公園 (師戸城跡) (印旛村)

南北朝時代に、師戸四郎が築城したとされる師戸城の跡につくられた公園で、土塁・空堀などの史跡がそのまま遊歩道や広場として活用されています。展望台からは印旛沼が一望に見渡せ、すばらしい景観です。園内には梅園や花木園もあり、訪れる人々がやすらげる場となっています。



えいふくじやくしどう

6. 栄福寺薬師堂 <国指定重要文化財> (本埜村)

正面側面共に三間の単相の堂で、屋根は茅葺寄棟造です。なお、棟札に「寛正7年(1466)6月柱立、応仁3年(1469)霜月上棟、文明4年(1472)2月成就と墨書銘があり、建立年代の明確な県下最古の建造物です。



もとさくらじょうあと

7. 本佐倉城跡 <国指定史跡> (酒々井町)

酒々井町本佐倉地区と佐倉市大佐倉地区にまたがる丘陵地に本佐倉城跡があります。本佐倉城は15世紀後半、関東屈指の戦国大名千葉氏の居城が千葉猪鼻城からここに移って豊臣秀吉に滅ぼされるまでの約100年間、下総・上総の拠点でした。現在でも城の土塁、空堀などがほぼ完全な姿で残っています。



なりたさんしんしょうじ

8. 成田山新勝寺 (成田市)

成田山新勝寺は、真言宗智山派の大本山で、境内には仁王門・三重塔など国指定重要文化財に指定されている建造物が5つあります。成田山開基1070年祭の記念事業として、成田山新勝寺総門が平成19年11月に建立されました。総門の構造形式は、総櫓造りの五間三戸楼門で、木組みや銅板瓦屋根の美しさに参詣客からは感嘆の声が上がります。総門の楼には、「生まれ歳守り本尊八体仏」が奉安されています。



「生まれ歳守り本尊八体仏」とは生まれ歳(十二支)に応じて決められた仏さまで、様々な災厄から守護してくださいとすることで「守り本尊」と呼ばれています。また、墓(かえる)股(また)には十二支の木彫刻が刻まれており、自分の干支の木彫刻の下をくぐると「守り本尊」の御加護を頂戴できるといわれています。

りゅうしょういん なめかわかんのん

9. 龍正院 (滑河観音) (成田市)

龍正院は、坂東三十三観音霊場の第28番札所として信仰が厚く、滑川の観音様として知られています。本堂は元禄11年建立の八間四面の広大な建物で、県の有形文化財に指定されています。そして、大きな見どころは国重要文化財に指定されている龍正院仁王門です。龍正院仁王門は、室町末期の



建築で、滑河観音の山門です。かやぶき屋根が、素朴で温かみのあるたすまいをみせています。